

教科(科目)	家庭	総時数	35時間	学年(コース)	1学年
使用教科書	東京書籍『新しい技術・家庭 家庭分野』 自立と共生を目指して				
副教材等	明治図書『技術・家庭総合ノート 家庭分野』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

<p>グラデュエーション・ポリシー</p>	<p>①高い学力・幅広い教養・学び続ける姿勢を身に付け、グローバル（地域的・地球的）な視野から社会課題を多面的に発見・考察し、その解決に向けて挑戦・行動・発信する能力を育成します。</p> <p>②高い倫理観、他者を思いやる心、傾聴する姿勢、豊かなソーシャル・スキルを持った人物を育成します。</p> <p>③リーダーシップ・フォロワーシップを身に付け、地域社会・国際社会と協働する態度を育成します。</p>
<p>カリキュラム・ポリシー</p>	<p>①中高一貫教育を生かし、高い学力と学び続ける姿勢を身に付ける教育課程を編成するとともに、すべての教科・科目において「深い学び」を実現します。</p> <p>②読書、新聞・図書室の活用を奨励するとともに、体験活動を取り入れた教育課程により、幅広い教養を育みます。また、探究の過程を重視するとともに、最新の教育方法を積極的に活用します。</p> <p>③4技能をバランスよく育成する英語授業を実践するとともに、「生きた英語」を学習する機会としての海外研修やさまざまな発表活動に取り組みます。また、積極的に国際交流活動にも取り組んでいきます。</p> <p>④アイデンティティを形成しつつ地域理解を深め、地球的視野で自分なりの社会課題を発見し、科学的な手法を用いてその解決を目指す課題研究を6年間通じて実施します。</p> <p>⑤6年間一貫した方針による道徳や人権教育等を実施するとともに、生徒会活動、部活動、課外活動を通して、主体的・自律的に考え行動し、互いに支え、高め合いながら協働的に活動することを重視します。</p>

2 学習目標

実践的・体験的な学習活動をとおして、一人の生活者としての基礎的な知識と技術を身に付けさせる。また、自分の家庭生活や地域の生活に深い関心を持ち、課題をもって生活を改善充実しようとする能力と、積極的な態度を育てる。

3 指導の重点

- ① 衣生活では、衣服の働きについて理解し、目的に応じて適切な選択ができるようにする。
- ② 被服実習では、計画を立てて製作できるようにする。
- ③ 保育では、自分の成長と家族の関わり、特に幼児が育つ環境としての家族の役割を考えることができるようにする。

4 評価の観点の趣旨

(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
家庭の基本的な機能について理解し、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている。	衣食住や家族の生活などを見直し、課題を見つけ、その解決を目指して家庭生活をよりよくするために工夫している。	衣食住や家族の生活などに関心を持ち、これからの家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとしている。

5 評価方法

(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテスト ・ワークノートの提出 ・作品の評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの内容 ・ペーパーテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークノートの提出 ・作品の評価
<p>内容のまとめりとともに、各観点「A：十分満足できる」「B：おおむね満足できる」「C：努力を要する」で評価します。</p>		

6 学習計画

月	単元名	領域	教材	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	私たちの衣生活	B (4)	衣服の働き	衣服の社会生活上の働きを理解する。	2	授業の取組
5		B (4)	自分らしい着方	色のもつ印象や T.P.O. に合わせたコーディネートを考える。	3	授業の取組
6		B (4)	計画的な活用方法	衣服計画をたて、リメイクなどの活用法を考える。	2	授業の取組 作品
7		(5)	被服製作	ミシンの使いかたを理解し、安全に使用できるようにする。	10	
8						
9		B (4)	衣服の選択	既製服の表示を知り、必要な衣服を選択できるようにする。	3	授業の取組 定期テスト ワークノート
10		B (4)	衣服の手入れ	適切な取扱いを知り、手入れと補修の方法を知る。	3	授業の取組
11	私たちの成長と家族・地域	A (2)	幼児の心身の発達	幼児期の心身の特徴を知る。 幼児期に適した食生活や衣生活を知る。	3	授業の取組 視聴覚学習
12		A(2)	幼児の生活習慣	基本的な生活習慣と社会的な生活習慣を知る。	2	授業の取組
1		A (2)	幼児の生活と遊び	幼児期の遊びの大切さを知り、その意義に気づく。	3	授業の取組
2		A (3)	子どもにとっての家族	子どもを育てる環境としての家族の役割を理解する。	2	授業の取組 視聴覚学習
3		A (3)	子どもの福祉	さまざまな子育ての場や子どもを守る法律や条約があることを知る。	2	定期テスト ワークノート

計35時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

・作品 ・視聴覚学習によるプリント ・ワークノート

8 担当者から一言

小学校で学んできたことをふまえ、自分自身や家族の生活についてより考えていきましょう。
前期課程では、「衣生活」と「保育」の分野について学びます。
被服製作での作品は、秋燕祭へ出品します。

(担当：倉茂)